

「パワーアップ 変化」を力に いま行動するとき



「12・18福祉関係者共同フォーラム」後のパレード (2007年)



「公的福祉の再生めざす12・18福祉関係者共同集会」会場 (2005年)

介護保険制度の導入をきっかけに、「権利としての社会福祉」が大きく変質させられました。お金の心配なく、必要に応じて利用することができなくてはならない福祉サービスが、お金を払って買う商品にすり替えられてしまいました。生活や身体に困難を抱え、たくさん利用しなければならない人ほど、高い料金を払わなくてはならない仕組みです。

しかしこの間、障害者自立支援法においては「そんな仕組みは憲法違反だ」と障害当事者から訴訟が提起され、同法を廃止して新しい法律をつくることで政府と和解が成立しました。

介護保険制度では、この10年の中で利用料を払えず利用を控えざるを得ない人がたくさん生まれ、介護人材確保の困難も社会問題になり見直しが求められています。

それなのに保育制度には「お金を払ってサービスを買う」仕組みが、前政権の政策を引き継いで持ち込まれようとしています。また、分野を問わず、社会福祉施設等の国の最低基準が廃止され地方まかせにされようとしています。

いま、あらためて「権利としての福祉」を考え、関係者が共同の運動を強めることが求められています。

プログラム

権利としての社会福祉を考える

- 各政党の福祉政策を聞く(全政党に要請中)
- 福祉の利用者・家族、福祉労働者、福祉事業者からの実態報告
 - ①介護・高齢者福祉②保育③障害者福祉
- 研究者からの問題提起

おはなし 石倉 康次さん(立命館大学教授)

アクセス

- ◆地下鉄有楽町線・半蔵門線
永田町駅下車6番出口 徒歩3分
- ◆地下鉄千代田線・丸の内線
国会議事堂前駅下車5番出口 徒歩5分
- ◆地下鉄南北線
溜池山王駅下車(国会議事堂前駅5番出口)
徒歩5分
- ◆地下鉄銀座線・丸の内線
赤坂見附駅下車 徒歩7分



会場
星陵会館
(東京・千代田区)